

■《セレナード》K.185 自筆譜関連イベント

1. モーツァルト生誕 250 年記念「モーツァルトの自筆譜(K.185)展」
2. 講演会:「聖徳大学所蔵のモーツァルト作曲《セレナード》K.185 の自筆譜をめぐって」
3. 国際シンポジウム「市民の中のモーツァルト～セレナードの世界～」
4. 《セレナード》K.185 の演奏

聖徳大学は、モーツァルトが作曲した《セレナード》二長調 K.185(K.167a)の第1楽章および第7楽章の自筆譜を所蔵しています。2006年、モーツァルト生誕250年を記念して、この貴重な自筆譜を公開するとともに、この作品を *モーツァルト in 聖徳 2006* の中で演奏しました。

モーツァルトは、3度目のウィーン旅行の途にあった1773年7月8日に、7楽章から成るこの作品を完成させました。ザルツブルク大学の予備課程の修了式に演奏される「フィナーレムジーク」という種類の音楽です。親しかったアントレッタ一家の息子の学業修了記念に依頼されたらしく、俗に「アントレッタ・セレナード」と呼ばれます。

この作品の自筆譜は、数度のオークションにかけられバラバラになるという悲劇に遭いました。現在でも多くの部分は所在不明です。そのような中で、聖徳大学は第1楽章全体と第7楽章全体の計29葉もの「文化遺産」を所蔵しています。

・関連ページ:[《セレナード》K.185 自筆譜](#)

1. モーツァルト生誕 250 年記念「モーツァルトの自筆譜(K.185)展」

聖徳大学所蔵のモーツァルト《セレナード》K.185 第1,7楽章の自筆譜を聖徳大学クリスタルホール・ギャラリーに展示しています。

会 期:2006年10月10日(火)～2007年4月28日(土)

時 間:9:00～17:00(休館:毎日曜日・祝日と学業日程による休業日)

※催しにあわせて開館時間変更の場合あり

会 場:聖徳大学クリスタルホール・ギャラリー

入場無料

お問い合わせ:

聖徳大学川並記念図書館 Tel.047-365-1111(大代)

2. 講演会:「聖徳大学所蔵のモーツァルト作曲《セレナード》K.185 の自筆譜をめぐって」終了

2006年10月21日(土)15:00開演 聖徳大学川並香順記念講堂

講 師:海老澤敏(新国立劇場オペラ研修所所長、日本モーツァルト研究所所長)

参加費:一般 1,500 円、学生 1,000 円

※この講演会では、聖徳フィルハーモニーオーケストラ(指揮:高橋大海)による《セレナード》K.185 第1、7楽章の演奏も行われます。

※上記1. の「モーツァルトの自筆譜(K.185)展」は開館時間を 18:00 まで延長します。

3. 国際シンポジウム(日本音楽学会関東支部特別例会)

「市民の中のモーツァルト～セレナードの世界～」終了

日時:2006年12月6日(水)15:00~17:30

会場:聖徳大学7号館 7301 教室

参加費:一般 1,500 円、学生 1,000 円

使用言語:日本語・ドイツ語(逐次通訳あり)

※当日、上記1.の「モーツァルトの自筆譜(K.185)展」は開館時間を19:00まで延長します。

■コーディネーター:

・海老澤 敏

(新国立劇場オペラ研修所所長、日本モーツァルト研究所所長)

■パネリスト:

・ルドルフ・アンガーミュラー博士

(ザルツブルク国際モツァルテウム財団前事務局長、学術部長)

・オットー・ビーバ博士

(ヴィーン楽友協会資料館館長)

・原 佳大

(ピアニスト、聖徳大学教授、ウィーン国立音楽大学夏季マスタークラス 客員教授)

■通訳:

・ヘルマン・ゴチェフスキ(東京大学大学院総合文化研究科助教授)

・山本まり子(聖徳大学助教授)

4. 《セレナード》 K.185 の演奏

2006 年

- ・10 月 14 日(土)平成 18 年度全日本音楽教育研究会大学部会にて終了
- ・10 月 21 日(土)上記 1.2.モーツァルトの自筆譜に関する講演会にて(第1、7楽章)終了
- ・10 月 24 日(火)聖徳オペラ公演第3回《フィガロの結婚》開演前(17:40 より演奏、第1、7楽章)終了
- ・12 月 2 日(土)音楽文化学科第8回定期演奏会にて(全7楽章)終了
- ・12 月 12 日(火)第 23 回『聖徳学園第九の夕べ』にて(第1、7楽章)終了